課題 23　学習の４本柱　―「学び」とは何か―

私たちは、学校では言うまでもなく、日常生活において多くのことを学んでいます。新たな知識や技能を身につけ、人間は日々、成長していると言えます。

ところで、人間はなぜ学ぶのでしょう。学びとは、一体どのような行為なのでしょう。「学び」や「学習」についての定義や理論は数えきれないほどあると言えますが、その一つとして、ユネスコ（国連教育科学文化機関）による学習論が挙げられます。

ユネスコが設置した「21 世紀国際教育委員会」は、学習とは何かについて分かりやすい概念を提示し、各国で紹介されてきました。つまり、学習とは「知ることを学ぶ」（ learning to know ）、「為すことを学ぶ」（ learning to do ）、「人間として生きることを学ぶ」（ learning to be ）、「共に生きることを学ぶ」（ learning to live together ）の「４本柱」から成り立っており、それぞれに重要な意義があるという概念です。一般に「学習の４本柱」と呼ばれるこの概念は、21 世紀の教育を論じる際にしばしば引用され、上記の委員会も４本全ての「柱」を同等に配慮していくことが大事であると説いています。

さて、「学習の４本柱」について次の二つの質問に答えて下さい。

(1) あなた自身がこれまで受けてきた教育では、どの「柱」、つまりいかなる学びに重点が置かれてきましたか。就学前から高校時代までを振り返った上で、自分の「教育史」を描き、また大学でどのような学びを大事にしていきたいのかについての展望も含めて 600 字以内で書いて下さい。なお、ここでいう「教育」は学校以外での場における教えや学びも含むものとします。

(2) 「学習の 4 本柱」は 21 世紀の教育について検討するために設置されたユネスコの委員会により提唱されました。しかし、実際に 21 世紀になると、グローバル化の影響下で予想以上に速いスピードで世の中が変化し、4本の「柱」だけでは十分でない、という見解が聞かれるようになりました。近年では、5本目の「柱」は何かという議論がなされています。あなたは５本目の「柱」として何がふさわしいと思いますか。これからの時代に求められる「学習」や「学び」を想定して、400 字以内で述べて下さい。

≪参考図書≫

■ユネスコ「21 世紀教育国際委員会」編（天城勲訳）、1997 年、『学習：秘められた宝』、ぎょうせい.

■生涯学習研究ｅ事典「学習・秘められた宝」
http://ejiten.javea.or.jp/content3223.html